

# 「自転車は文明のバロメーター、 豊かなライフスタイルを提案せよ」

多芸多才、多趣味、自らの価値観  
に忠実な型破りの新会長

―会長室に飾られている水彩画は自作  
とお聞きしていますが。

「そうです。余暇を見つけては絵筆  
をとるようにしています。僅かな時間  
でも毎日つづけていると何とかかたち  
になってくるものです。継

続は力なりなんて言われます  
けど、まさにそうじゃないで  
すか。私は人生を可能な限り  
楽しみたいし、そのために仕  
事も一生懸命頑張るという考  
えなんです。人間、好きなこ  
とに打ち込むことが一番大事  
なんじゃないでしょうか」

―推理小説や作詞、短歌、俳  
句などもかなりの腕前のよ  
うですが。

「それほどでもないんです  
が、推理小説は『オール読物』  
の新人賞候補になったことが  
あるんですよ。ちょっと自慢  
させていただくと私の出身大  
学（東大）の第一応援歌『闘  
魂は』は私の作詞なんです。



会長室には自作の水彩画が飾られていた。海外赴任の体験を反映させた作品が多い

―最相さんと言えば、競輪で不世出の  
逃げ屋（先行選手）とうたわれた高  
原永悟さんの足跡をたどった『高原  
永悟・逃げて生きた』という本も書  
かれていますね。

「それは知らなかった。今度、私は  
自転車の世界に入ってきたわけですか  
ら、それも何かの縁ですね。その本は  
是非読ませていただきます」

## 同質社会構造を否定、自転車業界 の閉塞感打破へ独自理論の実践へ

―それにしても阿部会長はこれまで通  
産省を皮切りに激務をこなされてき  
たのですが、プライベートの世  
界でも多彩な趣味を持たれ、しかも  
それぞれがかなりのレベルに達して  
います。実に多才というか、なか  
か普通の人には出来ることじゃない  
と思うのですが。

「そんなことはないのですが、私は  
自分自身の自由時間というか、個人  
というものを大事にするということに  
努力はしているつもりです。私は通産  
省勤務時代にポーランドに赴任するな  
ど、ヨーロッパで仕事をする機会が多  
かったのですが、向こうの人は仕事と  
プライベートをきっちり切り離します  
よね。定められた範囲で長期休暇も  
しっかりとりますし。そういう生活習  
慣、社会風土の中から個人というもの  
をしっかりと確立していますよね。そ

ういう考え方を基盤として個人、ある  
いは社会における本当の豊かさという  
のが培われていくんじゃないでしょ  
うか。

日本の社会構造というのは同質の渦  
社会みたいなものです。会社組織、あ  
るいは日本自体が同じ方向性を持った  
渦を形成していて、異質なものをそ  
から締め出すような構造になっている  
と思うんです。そこではなかなか個と  
いうものを確立しにくいですね。クリ  
エイティブな人間が育ちにくい。日本  
がもつと精神的に豊かに、柔軟に、逞  
しくなっていくためにはそうした単  
一方向性の渦社会を打破し、社会構造  
を変える必要があると思っているん  
です。座標軸の転換が必要です。

私自身、通産省に入ってからまもなくの  
頃、二十代半ばでしたが、それこそ寝  
る暇もないくらい働きずくめの時代が  
ありました。それは大げさじゃなく死  
ぬか生きるかという体験でした。そう  
いう仕事を続けていたら間違いなくつ  
ぶれてしまったでしょうね」

―自分自身を大切にすることから生き  
る活力も生まれてくると。

「そうですよ。人間が人間らしく生  
きられる社会構造をつくるっていう  
ことが大事なんですよ。個人がそれぞ  
れの楽しみを追求できる時間と空間を  
持った社会構造をつくっていくけるよう  
努力していきたいですね。そんな視点  
に立って考えてみると、自転車という